

医療現場での「やさしい日本語」 回答例 旭川医科大学病院編

シナリオ事例【腹痛による外来受診】

10月3日(2日前)から心窩部痛が出現。家にある胃薬を内服したが、腹痛はさらに悪化した。
10月5日朝、朝食は全く摂取できず、嘔吐も数回した。体温が38度まで上昇し、不安になり1人で病院に来た。外来受付担当から問診表の記載について説明を受けた。外来看護師は、記載された問診票をもとに患者に腹部の症状に関する問診を行った。その後、患者は診察室に入り、医師の診察を受けたあと、検査(採血、腹部超音波、腹部CT)を受けた。検査後、患者は再度診察室に入り、医師から軽度の虫垂炎であり、院外処方での内服の抗生物質が処方されると説明を受けた。

やさしい日本語に言い換えてみましょう。

受付～問診までの対応

1. 外来受付：どの国から来ましたか？この問診表にご記入をお願いします。
(当日はあらかじめ記入しておいた問診票を準備しておく)
2. 外来看護師：お名前を教えてくださいませんか？○さんですね。腹痛、吐き気があるのですね。いつから腹痛が出現しましたか？どのあたりが痛みますか？どの程度の腹痛ですか？吐き気はありますか？熱はありましたか(など)熱を測ります。体温計を脇に挟んでください。血圧を測ります。マンシエットを腕に巻きます。腕が少し締め付けられます。

検査から診察までの対応

(外来受付・待合)

3. 外来担当者(職種問わず・看護師、事務)：このあと採血室、腹部超音波室、CT検査室で検査を受けてください。終わったらもどってきてこの紙を受付に出してください。その後、廊下の椅子に座ってお待ちください。
4. 外来看護師：これから医師の診察と検査結果の説明があります。診察室にお入りください。

(診察室に入る)

5. 医師(虫垂炎の診断) 採血、腹部超音波、CT検査の結果、急性虫垂炎でした。炎症が軽度ですので内服の抗生物質を処方し経過をみます。熱、腹痛、嘔吐がおさまらない場合は、再度外来を受診してください。

診察後の対応

6. 外来看護師：1日3回毎食後に抗生物質の薬を1錠ずつ1週間飲んでください。薬は院外処方となります。院外処方箋を持ってお近くの薬局に行き薬を受け取ってください。
7. 外来受付：診察が終わりましたので、この後2階の料金精算窓口に行って料金をお支払いください。